

しみずの教育 ちよっといい話

【平成29年8月号】

清水小学校

校長 山下 勇

夏休み「ふれあい子ども学びのサポート教室」

今年も、清水高校生や町教委、地域の方、教職員など、ボランティアの皆様の協力を得て、「ふれあい学びのサポート教室」（3日間）を実施しました。参加した子どもたちは苦手な教科（主に国語、算数）の内容について、丁寧に指導やアドバイスを受けながら一問一問の答えを導き出すとともに、解き方や学習の仕方を学ぶことができました。この教室を通して、子どもたちは少し苦手意識を克服し、分かる楽しさや学ぶことの大切さを実感し、学びへの意欲が高まりました。



「そうか！これならできる」



「やり方が分かった」「次、やってみよう」

今回、残念ながら大学生の皆さんは特別講義等を受講のため参加協力はありませんでした。清水高校生9名が参加協力してくれました。おかげさまで、子どもたちは分かるまで、できるまでサポートしてもらい、充実した学習をすることができました。学びのサポーターとして、ご協力いただきましたボランティアの皆様には感謝いたします。

特別清掃で、校舎内がピカピカ

8月7日（月）～9日（水）（3日間）、特別清掃が入り、校舎内の各教室や特別教室、廊下、体育館等を清掃・ワックスがけしていただき、ピカピカになりました。普段、子どもたちだけでは掃除しきれない所まで、きれいに清掃していただきました。また、手洗い場の掃除用ロッカーも修繕していただきました。2学期、子どもたちはきれいになった校舎で、落ち着いた気持ちで学習活動はもちろんのこと、学級活動や児童会活動、仲間との遊び等、楽しく、元気に、そして集中して学校生活を送ることができるものと思います。これからも、子どもたちと教職員が一体となって、しっかりと清掃活動に取り組み、よりよい学びの環境をつくっていきたいと思います。恵まれた環境の中で学んでいる清水小学校の子どもたちの今後の活躍を期待していただきたいと思います。

清流まつりで 清水ジュニアブラスバンド演奏

5年ぶりの晴天の下で開催された「清流まつり」。そのトップバッターで演奏を披露した清水ジュニアブラスバンド。新入部員が多い中、山川先生や大谷先生の指導を受けながら、音づくりや演奏に取り組んできた子どもたちでした。各パートリーダーを中心に練習し、苦労しながらも曲を仕上げ、演奏しました。自分たちがめざすレベルにはまだまだのようですが、みんなが心を一にして演奏する姿勢はとても輝いていました。観客から大きな拍手を受けていました。多くの皆様に聞いていただいたことの喜びと演奏できたことの嬉しさを実感することができた子どもたちは幸せだと思います。次の演奏では、さらにいい音を響かせ、ワンランク・アップした演奏を聞かせてくれることを期待したいと思います。

御影小学校

地域に学び、世界に目を広げ、たくましく生きる子を育てる

校長 真下 正 則

4月10日（月）の入学式・始業式からスタートした1学期でしたが、7月27日（木）に終業式の日を迎えることができました。

この間、標題にあります学校の具体目標の具現化に向けて、子どもの力をのばす7つの取組と確実な定着を今年度の重点として教育活動を展開してきております。



遠足(乗り物や徒歩で目的地へ)

全校が一丸となって取り組んだ運動会、ちょっときつかったけれどみんなまで歩いた遠足、そして児童会が中心となって実施してきた各種活動、読書週間等、様々な子どもたちの活動が行われてきております。

笑顔で挨拶してくれる子、一生懸命掃除をしている子、教材園の作物の世話をしている子、グラウンドで一生懸命ボールを追いかけている子、鉄棒や雲梯で何回も練習している子を目にして、とても心が弾みます。

25日間の夏休み期間、「早ね、早起き、朝ごはん」に象徴される規律正しい生活やお手伝いで生活力をつけ、さらに家庭学習でしっかり復習して基礎学力を確実なものにしてほしいと願っています。それと同時に身の回りのことに目を向け、心をはたらかせ、好奇心や感動する心をもつ子どもに育ててほしいと考えます。



びよんびよんワールドから(児童会活動)

また、読書活動の必要性が叫ばれておりますが、ご家庭でもテレビを消して、親子一緒の「夕べの読書」等を実行してみてもいいか。きっと静かで心豊かな時間が過ごせると思い

ます。

知的好奇心は、子どもたちの特権でもあります。自然現象の不思議さに目をみはり、「なぜだろう?」「知りたい」と思う子どもであってほしいものです。長い休みでなければ得られない貴重な経験にトライしてみましょう。8月22日(火)の始業式には、また136名の子どもたちと笑顔で会えることを楽しみにしております。

清水中学校

校長 宝 輪 博 継

今年も昨年同様、各地で豪雨や台風による災害が続いています。第1学期の終業式では、九州北部豪雨について、生徒たちに話をしました。遠く北海道に住む中学生の自分たちにできることはあまりないけれど、同じ災害を受けた者としてしっかりと見守っていく必要があると伝えました。

すると夏休みに入って間もなく、生徒会執行部が、特に被害の大きかった朝倉市の朝倉市立比良松中学校に対して、復興への願いを込めたメッセージを作り送ってくれました。



僕たちの町も去年、台風によって大きな被害を受けました。そのとき、宮城県のとある中学校から応援の手紙などを頂き、僕たちはそのことにとても力をもらいました。なので、次は僕たちが伝える番だと思いました。今は辛く苦しいと思いますが、一生懸命頑張ってください僕たちも応援します。

そこに書かれたメッセージは、昨年の大変な経験が、しっかりと生かされ、成長を感じさせてくれるものでした。

募金もいい、ボランティアもいい。しかし何よりも大切なことは、当事者意識をもって見守り、思いを伝えていくことです。

修学旅行で続けてきた震災学習の意義も、ここにあります。

こんなに熱心に花壇の世話をする中学生は見たことがありません。夏休み中も部活動の前後には、必ず学級花壇に立ち寄って草取りをしたり、水をあげたりしている生徒がいます。「部活動のついで」ばかりでなく、部活動に所属していない生徒が、ひとりで熱心に世話をしている姿も見かけました。



—昨年の大規模改修で美しく生まれ変わった校舎に、たくさんの花々が彩りを加えてくれています。清水中学校の美しい学校環境は、こうした生徒たちの手で守られています。

—昨年の大規模

改修で美しく生まれ変わった校舎に、たくさんの花々が彩りを加えてくれています。清水中学校の美しい学校環境は、こうした生徒たちの手で守られています。



7月17日は「北海道みんなの日」（道みんの日）

北海道に新しい記念日ができました。道民が、本道の歴史や文化、風土等を見つめ直すとともに、北海道の価値を再認識し、一体となってより豊かな北海道を築いていくことを目的に、「北海道みんなの日」が制定されました。愛称は「道みんの日」です。

時代は江戸から明治へ移り変わり、松浦武四郎は開拓使の役人として、1869年7月17日に蝦夷地に代わる名称の提案を明治政府へ行いました。その候補にあがったのが6案ありましたが、最終的に「北加伊道」の「加伊」が「海」となって、同年8月15日に現在の「北海道」と命名されました。

「北海道みんなの日」にちなんで、道内では17日、45の公共施設が無料で開放されました。本校では、7月18日（火）の朝のホームルームで各学年担任より「北海道みんなの日」が出来た経緯について紹介いたしました。



スマホ・ケータイ安全教室

先日、全校生徒が携帯電話のモラル等について学習しました。携帯電話が普及し、生活に浸透していく中で、その機能はますます進歩しています。特に青少年においては携帯電話によるインターネットサービスやメールなどの利用が急速に広がっており、携帯電話を通して様々な情報に触れる機会が増えています。

一方で正しい利用ルールやマナーを知らなかったために、青少年がトラブルに巻き込まれる事例も多発しています。携帯電話を安全安心に利用するためのルールとマナー、特に受発信する情報の取り扱いについて、事件事例を通じて被害者となる場合、加害者となる場合の両面を専門家の方からお話を聞かせていただきました。

1年生自然体験学習

7月12日（水）、1年生25名は然別湖でカナディアンカヌー体験や森の探索、ウチダザリガニの生態調べを体験し、自然の素晴らしさを満喫してきました。

大雪山国立公園内ですので生物を捕ってはいけませんが、ウチダザリガニは外来種ということで駆除の対象になっています。特別に許可を得て捕らえてザリガニを茹でて食べてみました。海老と同じ味がしました。これらの経験を2年生の体験学習に生かしてほしいと思います。



第70回記念の「清高祭」!

7月8日(土)～9日(日)に清高祭を開催しました。今年は第70回記念ということで、ドローンによる人文字空撮や、北大のよさこいサークル「縁」との総踊り、豪華景品がもらえるスタンプラリー、TVで活躍しているバンビーノやシソンヌをサプライズで招いたお笑いライブと大抽選会など、例年にも増して盛り上がる新企画満載でした。また、恒例の生産技術系列の「清水ピザ」も大好評。一般公開では180名を超える保護者や地域の方にご来校いただきました。ありがとうございました。

中でも、70回の清高祭を振り返りながら、清水町や北海道の歴史について、文化委員が模造紙7枚にまとめて展示した「清高祭の軌跡」は、卒業生と思われる年配の方にも足を止めて読んでいただいていた。

クラスごとに行われる展示では、江本拓真君(御影中出身)を中心に教室でプロジェクションマッピングを上映した3年B組が1位を獲得。プレゼンテーションソフトを使用し、幾何学的な模様の様々な変化が楽しめる労作でした。



アトラクション部門では、3年C組が1位を獲得。突如現れ、町を破壊するバルタン星人に対し、特別対策チームが数度の攻撃を試みるが失敗。三好健太君(清水中出身)の扮する青年が激しい戦いの末、最後に倒す(夢?)という、ストーリー性のある作品でした。



全日準備から後片付けの日まで続いた猛暑の影響などのため体調を崩した生徒もいましたが、救急や医療関係の皆様のおかげで大事に至らず、終了することができました。関係の皆様にご心配をお掛けしたことをお詫びするとともに、ご協力に深く感謝いたします。

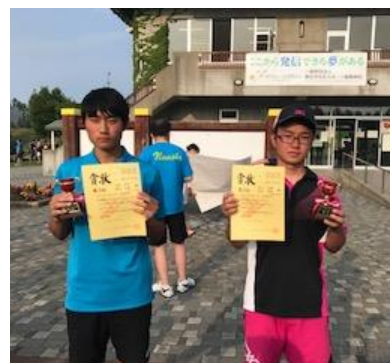
町外生の活躍にも注目 全道大会、全国大会へ!

清高祭では実行委員長の蛭名藍香さん(芽室西中出身)が全体を総括して奮闘していたように、町外生も部活動ほか様々な場面で活躍しています。

6月に行われた高体連全道大会では、陸上の佐藤美睦さん(新得屈足中出身)がやり投げで4位となり、7月28日(金)から山形県など南東北で開催された全国大会に出場してきました。



また、7月に行われたソフトテニスの国体十勝支部予選会では、村上隼輔君（帯広緑園中出身）と鳥井洋助君（新得屈足中出身）のペアが3位を獲得、8月7日（月）から旭川市で開催される全道大会に出場します。



清水高校では、清水町出身と町外出身の生徒がお互いに協力し、また切磋琢磨しながら、成長していく姿が見られます。町外出身の本校生にも、清水町にある高校で学校生活を送る「しみずっ子」として、あたたかいご支援をいただいていることに感謝するとともに、引き続きご理解と応援をよろしく申し上げます。

清水幼稚園

園長 福原幸江

2年ぶりの青空防火教室



7月18日（火）に青空防火教室を実施しました。昨年は、雨が多く、日にちの設定ができない間に、大水による被害となり、体験することができなかった行事です。年中児にとっても初めての体験となり、少々緊張気味に出かけました。消防署では、消防士さんの丁寧なお話のあと、実際に放水体験をしたり、救急車や消防車に乗せていただいたりしま

した。救急車や消防車では、いろいろな機械に興味津々で「これは何をしますか?」と質問していました。また、煙の中を歩く体験では、用意していったハンカチを口や鼻にあて、態勢を低くして通り抜けました。中には煙を怖がってしまう子もいましたが、幼稚園に戻ってからも「楽しかったね!」と話していました。



高齢者スポーツ大会…ハピネスにあわせて



7月19日（水）町高齢者スポーツ大会に、4・5歳児が参加しました。たくさんのお年寄

りの前でとても緊張していたり、反対に集中力がそがれたりといつもと違う子どもたちの顔がありましたが、一生懸命発表しました。

運動会に向けて練習・発表した5歳児の「運動遊び」ハピネスの音楽に合わせた縄跳び・フラフープによる活動では、全員がフラフープを回すと大きな拍手とすごいねの温かな言葉をいただきました。4・5歳児による「集団表現遊び」として披露したバルーンでも、メリーゴーランド・帽子などに大きな称賛と拍手をいただき、子どもたちも心地よく終了することができたようです。

教育委員会

第10回 中・高連携サイエンス・サマースクールの開催

液体窒素で -196°C ・・・低温の世界を体感！！

7月22日（土）清水中学校を会場に、第10回サイエンス・サマースクールを開催しました。清水高校、清水中学校、御影中学校から23名の生徒の参加がありました。講師は、北海道教育大学釧路校講師の中山雅茂先生です。中山先生には平成24年度から毎年来ていただいています。

今年のサイエンス・サマースクールのテーマは、「低温の世界」です。液体窒素を使って、 -196°C の世界で色々な実験をおこないました。液体窒素を使った実験はなかなか学校では難しく、ほとんどの子は初めての体験でした。北国に住む私たちは -20°C ぐらいの温度は生活の中で経験がありますが、 -196°C は未知の世界です。子どもたちはどうなるのか興味津々です。

はじめは、色々なものを液体窒素の中に入れて冷やす実験をしました。

①マシュマロは固まる②乾いた紙は変化なし。濡れた紙は触るとぱりぱりと砕ける③ソフトテニスボールは固まり、床に落とすとパリンと音を立て砕ける④スーパーボールはガラスのように固まり、弾力はなくなる等、その変化のすごさに驚いていました。

次に低温の世界での不思議な現象について実験をしました。

①液体窒素にツイストバルーンを入れた時の変化②試験管につないだ風船に酸素を注入し、試験管を液体窒素に入れた時の変化③液体窒素の中にコイルを入れた時の豆電球の変化④液体窒素の中でシャープペンシルに交流電源を流した時の変化等、様々な不思議な現象を見ることができました。



【液体窒素で作ったシャーベット】



【液体窒素にツイストバルーンを入れる】

最後に、カルピス等に液体窒素を入れて、シャーベットを作りました。暑い夏の教室でのシャーベッ

トの味は格別でした。

急遽、予定外で、よくテレビ等で見るとバナナを液体窒素の中で冷やし、釘を打つという実験を実際に試してみました。堅くなったバナナは見事に釘を打ちつけることができました。

清水高校2年生のY・T君は、「普段の生活では、 -20°C ぐらいなので、今回は -196°C の世界を感じることができてとても良かった。はじめてサイエンス・サマースクールに参加したけどとても楽しかった。また、来年チャンスがあれば積極的に参加したい。」と感想を述べていました。

(教育指導幹 清水彦一)



ほろ教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

夏〜かぐわしい香の中で 志(夢)大きく

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、家族の一員

お手伝い

地域は、笑顔で声掛け

こんにちは